

1. 評価結果概要表

作成日平成20年10月30日

【評価実施概要】

事業所番号	3770102592
法人名	社会福祉法人 瑞祥会
事業所名	グループホーム 真珠の湯
所在地	香川県高松市新田町甲2712-1 (電話)087-818-1060

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成20年9月24日	評価決定日	平成20年10月30日

【情報提供票より】(20年9月30日現在)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年9月1日
ユニット数	2ユニット 利用定員数計 18人
職員数	14人 常勤 5人, 非常勤 9人, 常勤換算 14人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 2階建ての2階部分
------	-------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000円	その他の経費(月額)	7,500円+実費	
敷金	有()円		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000円			

(4) 利用者の概要(9月30日現在)

利用者人数	17名	男性	1名	女性	16名
要介護1	5名	要介護2	3名		
要介護3	6名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.6歳	最低	76歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	百石病院(内科・外科)	樋端クリニック
---------	-------------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所の運営主体は、老健などを経営する社会福祉法人である。“笑顔あふれる、真心込めた支援”を理念とし、第1・2の各ユニットのホールおよび事務所(職員室)スペースに掲示し、全職員が共有している。各職員は、日々の生活支援の中で、利用者に伝わりやすい声のトーンや、優しい雰囲気づくりを実践し、利用者への具体的ななかかわりの中で理念を浸透させるよう努力している。毎日10時から「歩け歩けの時間」を設け、気候のよい日には屋外で、天気の悪い日や日差しが強い日は施設内でBGMを流し、約30分間、職員の見守りや介助のもと、利用者各人の個性・特性に応じたスタイルで歩いている。歩いている利用者の殆どは、表情が柔らかく、利用者同士が連れ立ったり、助けあったりしながら自然な体力、筋力の維持・向上への取り組みがされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回・前々回と引き続き食事の雰囲気づくりが改善項目となっていた。訪問調査日は、早出勤務者1名が利用者と共に食事をしており、他の職員は食事介助などに関わっていた。利用者は、食事中お互いの発言も一部の方のみで静かに食べている。利用者と職員が、食事を楽しむことができるように工夫し積極的な取り組み、支援が望まれる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>日常介護業務などの関係で、実質、管理者が評価している。評価の意義を全職員が十分理解しているとは言い難いが、改善できるところは改善している。今後は、全職員で改善に向けた検討をするなど具体的取り組みを期待したい。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2か月に一回、当事業所の実情に即した話し合いが展開されるなど、会議内容は充実している。できれば、次回開催時に前回の討議内容についての実践および経過報告がなされるよう期待したい。また、全職員が運営推進会議の討議内容を十分理解し、意見を活かした取り組みが実現するよう工夫が望まれる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>年一回、家族会を開催し、すでに入居している利用者家族から利用方法などについての具体的な助言がなされ、新しい利用者家族に好評を得ている。また、月一回の家族への定期報告は、利用者の表情がよくわかるようにA4サイズのコピー用紙に拡大した写真を送ったり、金銭出納状況も報告するなど、丁寧で分かり易い工夫をしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>夏祭りなど、地域の人を招いた法人の行事に利用者が参加する程度で、日常的な交流までには至っていない。今後は、運営推進会議に参加している自治会の人を通して自治会加入を実現したり、地域内の小学校、幼稚園、保育園に働きかけるなどから、利用者と地域住民やこどもたちと日常的な交流の実現に発展することを期待したい。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年より、当事業所独自の「笑顔溢れる真心込めた支援」を、運営理念としている。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	第1・2各ユニットのホールおよび職員室に運営理念を掲示し、職員に周知している。利用者への声かけ時の声のトーンを工夫したりするなど日々理念に基づいた実践がされるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	年一回の同法人敷地内での夏祭りへの参加はあるが、日常的な地域との交流には至っていない。	○	今後は、運営推進会議に参加している自治会の人を介して自治会加入したり、地域小学校、幼稚園、保育所などに働きかけるなどから、利用者地域住民の日常的な交流の実現や地域の一員としての、事業所の役割の検討が望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	日常介護業務などの関係で、管理者が評価している。評価の意義を全職員が十分理解しているとは言いが、改善できるところは改善している。	○	運営者、管理者、職員全員で自己評価・外部評価の意義について話し合い、サービスの見直し、向上のために評価を活かし、具体的な改善への取り組みを期待したい。
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回開催している。看取り看護の在り方など、利用者サービスの実際について具体的な協議をしている。一方で、評価への取り組み状況などについての報告・話し合いはなされていない。	○	今後は、評価への取り組み状況などについての報告や話し合いも行き、運営推進会議での意見・協議内容が利用者サービスの向上に活かせることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行き来する機会を持っていないが、書面での情報収集、情報交換をしている。	○	今後は、意図的に、利用者のサービスの質向上のために市に出向き、生の情報収集・交換を心がけるなど、事業所の考え方や実態を知ってもらい、考え方や課題を市担当者と共に、市と共同で取り組む姿勢を期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や請求書送付時に利用者の体調や日常生活の状況、金銭管理についても個々に報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの忌憚のない意見を出していただく機会を提供する意味から、年一回、家族会を開催し、経験豊かな家族から他の家族にアドバイスすることで、新しい家族から好評を得ている。また、意見を運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	自己退職や法人間の異動により、利用者に馴染みのある職員が代わる場合、長く在職していた職員に対しては利用者と共に送別会を行ったり、新しく来た職員は利用者で紹介するなど、利用者や馴染めるような機会をつくっている。短期間で退職する職員に対しては利用者、家族共に伝えていない。	○	運営者は、利用者が馴染みの管理者、職員に支援が受けられるよう異動や離職を必要最小限に抑える工夫が望まれる。また、たとえ短期間でも利用者支援にかかわった管理者、職員が離職、異動する際には利用者・家族に伝える工夫も望まれる。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所としての研修計画が立てられている。また、外部研修に参加した場合は、口頭や資料などにより伝達する仕組みはできている。しかし、勤務ローテーションの関係で、外部研修を受ける機会が十分ではない。	○	ベッドから車椅子移乗など小さなことからでも、利用者支援の方法について職員が意見を出し合うなど、具体的研修内容を考えた改善を期待したい。また、外部研修については、早目に周知し勤務調整するなどにより、参加実現に向けた努力を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流機会は持っていないが、管理者研修会などの機会を活用している。	○	利用者へのサービス向上に向けて、管理者や職員が、ネットワークや勉強会、相互訪問などにより同業者との交流を図る工夫が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者は馴染みながらのサービス利用の必要性を認識しており、職員は利用者が場に馴染めるように努めているが、訪問調査日の2日後に入所予定になっていた方は、調査日の一週間前に家族と見学に来られ入所手続きをしている。	○	職員は馴染みながらのサービス利用の必要性を認識し、利用者が場に馴染むように努めている。今後、利用者を中心に家族とも相談しながら、職員や他の利用者、ホームの雰囲気に馴染めるよう段階的な支援の工夫が望まれる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、食事作りなど利用者本人と一緒に過ごす中で、喜怒哀楽を共にしたり、本人から学んだり、支えあう関係づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に提出されたフェイスシートから、利用者のこれまでの生活歴や趣味などを把握し、編み物、絵画制作などできる限り本人の希望に沿った支援の実践ができています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族から話を聴いたり、職員の観察内容をもとに話し合う機会をもち、介護計画を作成するよう努めているが、必要な関係者との話し合いの時間が十分ではない。	○	医師による行動障害の観察からの意見を取り入れるなど、より多くの関係者からの意見を反映させた介護計画の作成に期待したい。そのためのカンファレンスの時間が必要と思われる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	個々の心身の状況変化に応じて介護計画見直しを行っている。3か月に一度の定期的見直しはできていない。	○	今後は、担当制にする計画もあるとうかがったので、本人、家族、必要な関係者とともに、3か月に一度は、定期的な見直しが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医への受診のための送迎支援、買い物、併設施設の温泉利用など、ホームの多機能性を生かした支援を行う努力が見られる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向を大切に、かかりつけ医の定期的受診および急変時の受診支援が実施できている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族などの話し合いは重ねているが、かかりつけ医との話し合いは十分とはいえない。今後個々への方針を話し合い、共有できるよう努める。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りを尊重し、プライバシーを損ねるような言葉かけはしていない。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日のスケジュールはあるが、編み物、塗り絵、マッサージ、観葉植物の水やりなど個々の利用者の希望に沿った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食卓はきちんとふいて清潔感がある。調査日当日は外部の人(評価調査者)が来て、利用者はいつもと違う雰囲気を感じていたのか、職員も気配りはしていたが食事の会話も少なく静かに食べていた。	○	できるだけ職員が利用者と共に食事のできる工夫望まれる。また、食卓に季節の花を生けたり、食材や味付けなどの会話を通じて、食事を楽しむ雰囲気づくりも必要と思われる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に2日に一度の入浴回数としている。本人の希望があれば、毎日入浴やデイサービスでの温泉を楽しむ配慮をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、洗濯物たたみの役割や、花に興味がある人には、近くのホームセンターに花の苗の購入に出掛けたり、編み物をするなど楽しみごとや気晴らしの支援に努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は平均年齢86歳と高齢で、最近まで暑い日が続いていることもあり、日常的な外出支援はできていない。月1回は外出レクリエーションで気晴らし支援を行っている。	○	今後は、戸外に出る時間帯などを考慮して、敷地内の庭を散歩するなど日常的な外出支援の実施を期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、他利用者の部屋に出入りする利用者がいたり、実際に避難用の滑り台から滑り落ちたりの事実があったことから、安全確保のために玄関、居室共に日常的に施錠している。	○	運営者および全職員が、玄関・居室に鍵をかける弊害を理解しており、開錠する時間帯を拡大するなど鍵をかけないケアに取り組んでいるが、さらに検討、改善を期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	平成17年以降、3年間災害訓練は実施できていない。現在、デイサービスにいる防火管理者と打ち合わせし、10月以降に訓練を予定している。	○	今後は、避難経路の確認、避難方法(夜間も含めた)のシュミレーションの実施により、消防署、地域の方々の協力も得ながら災害訓練の実施を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、法人栄養士が作成したものを使用している。水分は、起床時、10時のおやつ、入浴後などにお茶、ジュース、コーヒーなどで補給している。今夏、脱水症で病院受診した経験から、水分補給についても研修計画に取り入れるなど、きめ細かな支援に活かしたいと考えている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、季節感のある壁画を展示したり、採光に関しては、ロールカーテンで調整している。また、西側の個室は、真夏には西日が強く、クーラーで対応していたが、「よしず」での対応を考えるなど、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまで自宅で使っていた箆箆や仏壇をを持って来たりして、使い慣れたものや好みの物を活かして、本人が居心地よく過ごせる工夫がされている。		